

まちづくり検討会発の
アイデアをピックアップ!

下丸子“これから”MAP

2024年2月に活動をスタートした「まちづくり検討会」は、約40名の地域関係者から構成され、2024年度は4つのグループに分かれて議論してきました。そこから生まれたアイデアをテーマごとにピックアップし、下丸子の地図にマッピング。メンバーのコメントとともにご紹介します!

GROUP-A

“街路”を考えよう



駅前空間から広がる 歩行者にやさしいまちづくり

東急多摩川線の中でも利用者数の多い下丸子駅は、踏切による混雑が問題になっています。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全で快適に歩ける街路空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、まちなかの歩留スペースの確保や多摩川沿いのつながりの強化など、街路空間の考え方について議論しています。



メンバーから
ひとこと /
水野 紗子さん

子育てをしながら、行政や区民同士でフラットに話し合う機会が新鮮で貴重な体験でした。今後、より具体的に議論を進めるには、グリスの作成や情報発信などで事業をデジタル化し、下丸子ファクトリーを活用していくことが重要。国内外の都市を参考に、次世代にも長く愛されるまちの可能性を探りたいです!

GROUP-B

“商店街と産業”を考えよう



下丸子ならではの魅力を活かし 新しいコミュニケーションの場を

「商店街」や「町工場」は、下丸子のまちの風景を形づけている重要な文化・産業のひとつ。そうした地域ならではの魅力をさらに発展させていくためには、地域住民がその強みや魅力を理解を深め、新たな活動が生まれる機会を高めることが大切です。具体的には、地域で働く人々や企業、商店街のお店の魅力を伝える場の充実、さらに住民同士が気軽に情報交換できる機会の創出など、地域活動に関心のある人が挑戦しやすい環境づくりについて議論しています。



メンバーから
ひとこと /
田中 健二さん

下丸子のまちについて思いを持って考えている人がたくさんいることを改めて実感しました。メンバー以外にも、子育て中の人や高齢者など、まだまだ知られていない人がいるはず。これからはそうした人たちに積極的に発信し、活躍できる場を広げていくことで、まちの魅力はさらに向上すると思います!

GROUP-C

“オープンスペース”を考えよう



多目的に利用できるスペースを 駅前やまちなかに増やす

多摩川河川敷や下丸子公園など、住民が体を動かしたり、滞留したりできる場所が充実しています。その一方で、用途が限られていたり、下丸子駅から距離があったりという課題も。そこで、将来の駅周辺の姿を見据え、駅前広場や公共空間の活用方法を検討。さらに、河川沿いの地域としての特性を踏まえて災害へ備えることの必要性についても着目し、さまざまな観点から駅前やまちなかの空間の活用方法について議論しています。



メンバーから
ひとこと /
木村 浩志さん

同じまちに暮らしていても、人それぞれの関わり方や視点があり、はかめなメンバーと意見交換をする時間は刺激的で楽しかったです。今後は、目指すゴールについて社会的な合意を形成することが大切。下丸子のまちの未来を考える人が少しでも増えるよう、まずは自分自身が楽しんで関わってきたいです!

GROUP-D

“地域資源と景観”を考えよう



今ある資源を活かし 地域内外から人が集まるまちに

下丸子にはガス橋通りや多摩川河川敷、神社、大田区民プラザなど地域特有の自然環境や文化資源があります。そうした地域資源を活用し、まちの魅力を高めていくために、地域の情報発信をはじめ、季節の行事やイベントとの連動、名所をつなぐネットワークの確保など、さまざまな観点から景観づくりを進めるアイデアを検討。既存の資源を最大限に活かし、多様な人が関わるプラットフォームとして、まち全体の魅力を引き上げることを目指して議論しています。



メンバーから
ひとこと /
岩尾 有美さん

検討会では自由に発言でき、また多様なジャンルの方の意見を聞くことができて面白かったです。今後、より具体的に施策を推進していくためには、専門的な技術や知識がさらに必要になってくるはず。今後はそうした経験豊富な人たちの力を活用しながら、少しでも多くの成功例をつくってきたいと思っています!